

避難する時に支援が必要な方は 名簿に登録をお願いします

市では、高齢者や障害のある方を地域ぐるみで守るための「避難行動要支援者名簿」の作成に取り組んでいます。一定の要件に該当し、登録を希望する方は、市の窓口へ申請してください。

■「手助け」が必要な方を 地域ぐるみで支援

市では、災害対策基本法の改正により避難行動要支援者支援制度に基づく名簿を作成しています。

この名簿は、災害時や災害発生の際がある時に、自力避難が難しく、第三者の手助けが必要な方に対し、自主防災組織など、地域の方々が協力して避難支援を行うために作成するものです。名簿には、一定の要件に該当し、本人が同意したうえで申請した方の氏名や生年月日、介護や障

害の程度などが明記され、避難が必要な場合に、その情報に基づいた具体的な支援方法などが確認・実施されます。

名簿情報は、自治会や行政委員、民生委員・児童委員、警察署、消防機関、社会福祉協議会などにおらかじめ配付され、災害時のほか、平常時の声かけや見守りを行う際にも役立てられます。

■「避難行動要支援者」とは

名簿に登録できる方は、次に該当する方で、災害時や災害発生の際がある

- ① 介護保険の要介護度が3～5の方
- ② 身体障害者手帳1級・2級をお持ちの方（内部障害のみの方を除く）
- ③ 知的障害者で療育手帳A判定をお持ちの方
- ④ 障害者総合支援法による障害支援区分が1～6の方
- ⑤ ①から④以外の方で、本人や家族、自治会、民生委員・児童委員などの申し出により支援

が必要と認められた方（※）

- ※ 高齢で一人暮らしの方
- 介護保険要介護度1・2の方、療育手帳や精神保健福祉手帳を所持している方、発達障害の方、難病患者の方、高次機能障害などで自力で避難が困難な方。

■登録を希望する方は 申請を

避難行動要支援者に該当する方で、名簿への登録をご希望の方は、市の窓口で申請してください。本人が申請することが困難な場合は、代理人の方がご相談ください。

なお、この名簿への登録は、確実な支援や安全を保証するものではありません。日ごろからご家庭で災害に対する十分な備えを心がけましょう。



◎名簿活用イメージ



■問い合わせ先

- ・ 市社会福祉課 社会福祉係
tel: (22) 3428
- ・ 市高齢介護課 高齢企画係
tel: (22) 3462
- ・ 唐桑総合支所 保健福祉課
tel: (32) 4811
- ・ 本吉総合支所 保健福祉課
tel: (42) 2975

「けせんぬま健康プラン21」

市民委員を募集します

■ 問い合わせ・応募先

〒988-0066 気仙沼市東新城二丁目 2-1

市健康増進課健康増進係

tel : (21) 1212・fax : (21) 1016

メール : k-kenkozoshin@city.kesenuma.lg.jp

■ 任期 / 8月1日から平成29年3月31日まで

※期間中、3回程度委員会を開催予定。

■ 募集資格 / 市内にお住まいの20歳以上の方で、健康づくりに関心があり、平日開催の委員会に出席できる方(市の他の審議会委員などでない方)

■ 募集期間 / 5月9日(月)から23日(月)まで

■ 応募方法 / 所定の申込書に必要事項と市の健康づくり施策へのご意見・ご提言を記入のうえ、持参か郵送、ファクス・Eメールのいずれかで応募してください。

市では、市民一人ひとりの健康づくりを支援するため、計画期間を平成29年度からの5年間とする第3期気仙沼市健康増進計画「第3期けせんぬま健康プラン21」を策定します。

※申込書は市健康増進課(市民健康管理センター「すこやか」内)に備え付けのほか、市ホームページからもダウンロードできます。

策定にあたり、第2期のプランを評価し新計画の策定にご参加いただく市民委員を募集します。

■ 募集人員 / 5人

【市長コラム】

— Go Ahead! Kesenuma —



第53回

「SGH&SGU」

「ゴーヘイ」とは、船舶関係者が使う「前進(Go Ahead: ゴアヘッド)」を意味する言葉で、本市でも漁業関係者に広く使われ、力強く、前向きな言葉です。

新年度に入り、うれしいニュースが飛び込んできました。地元気仙沼高等学校がスーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定されたのです。

折しも去る4月11日、本市は大分県別府市にある立命館アジア太平洋大学(APU)と友好交流に関する協定を締結しました。同大は約6,000人の学生

が学生・生徒の前途を拓き、本市の発展に国際色を強くもたらすことを期待しています。また、同大学との交流は、同大生が大震災に関連して当地で多くの学びを得ると同時に、本市にとって観光面での大きな期待と課題であるインバウンド(外国人観光客)への対応に、極めて有益な情報や視座を与えてくれるもの

政府は社会課題に対する関心や深い教養、コミュニケーション能力、課題解決などの国際的素養を身につけ、将来国際的に活躍出来るグローバルリーダーを高等学校段階から育成するため、平成26年度から3年間で全国の意欲ある123校を指定してきました。28年度は114校から応募があり、気仙沼高等学校を含む11校が指定されました。

同校の構想は「海を素材とするグローバルリテラシー育成」。本市が取り組む持続可能な発展のための教育(ESD)や本物に接する活動、東日本大震災の経験、探究型学習

世界の中では、毎日テロや衝突が発生しています。人種や民族・文化・宗教をふかんして理解する力を身につけ、国籍や立場の違う生の人間同士の接触を通じて得られる共感を経験した若者を出来るだけ多く輩出することが、その解決にとって地味だが重要な道。そんな芽をここ気仙沼から育てたいと思います。



OECD(経済協力開発機構)本部で桜を植樹する気仙沼高校生徒(平成26年9月1日:フランス・パリ)

気仙沼市長 菅原 茂